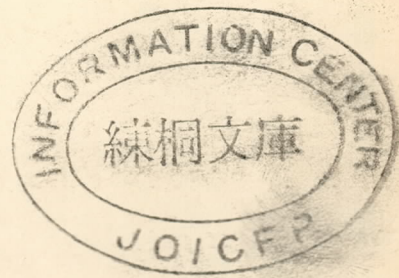
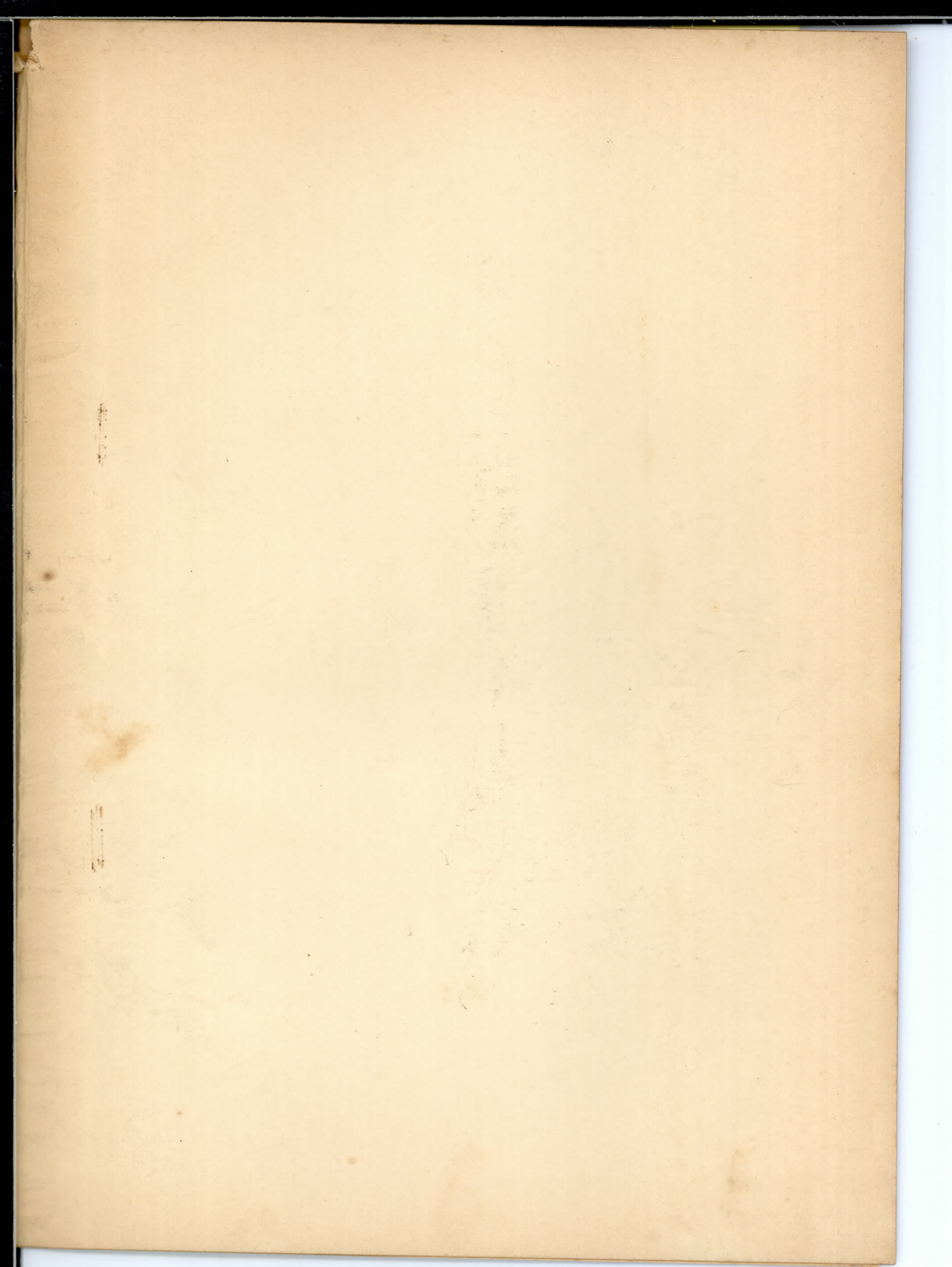


昭和二十九年一月二十二日

第三回人口問題審議會議事速記録



於 日本工業クラブ



第三回人口問題審議會議事速記録

昭和二十九年一月二十二日
於日本工業クラブ

一開会 午後一時四十四分

一議事

一閉会 午後三時四十分

出席者 (五十音順)

厚生大臣 草葉隆田

會長 下村宏

會長代理 永井亨

(2)

委員

安藤 画一 (代理)

委員

浜口 雄彦

飯沼 一省

林 惠海 (代理)

石井 英之助

福田 邦三

石坂 泰三 (代理)

藤田 藤太郎

賀川 豊彦 (代理)

本田 親男 (代理)

木村 忠二郎

松岡 駒吉

笹山 忠夫

宮崎 太一

沢田 節藏 (代理)

村瀬 直養

下条 康磨

村山 道雄

田宮 猛雄

諸井 貫一

寺尾 琢磨

矢野 一郎 (代理)

那須 皓

山際 正道 (代理)

委員

山中 篤太郎

幹事

小山 進次郎

山本 杉

館 稔

専門委員 岡崎 文規

久田 富治 (代理)

加田 信文 (代理)

堀 秀夫 (代理)

北岡 壽逸

その他政府関係者

古屋 芳雄

館 稔

本多 龍雄

美濃口 時次郎

山口 正義

第三回人口問題審議会議事速記録

昭和二十九年一月二十二日

於 日本工業クラブ

午後一時四十四分開議

会長

それでは開会いたします。御多用の中を御参会くださいましてあ

りがとうございました。本日は一万田委員を初の他に二、三意見を開陳願うことになつておりましたが、病氣になり、また事故のために出席ができません。なほは、た残念に思います。なお他に御意見を願う方が三、四ございますから、また御意見をお述べになる方があれば、続いてそのあとでお願いすることにいたしたいと考えます。

それでは、まず山中委員から御開陳を願います。

山中委員

前会に欠席をいたしましたので、ただいまその際の速記録を拜見

しておるところであります。が、どのようなことを申し上げてよろしいのか、突然御指名をいただきまして非常にあわてておるのであります。あるいははしう、すでに前回の会議の際に御発言になつたようなこととダブることもあるのではないかと思ひますけれども、この機会を与えられましたので、五、六分簡単に、ごく粗雑でございますが、私の考え方を申し述べさせていただけたいと存じます。

実は第一に感じましたことは、この速記録を今読まして頂きまして、最初の方を拜読いたしました。すくと大体

の指導的な地位においてになる方が、御謙遜かも知れませんが、自分としてはしろうとであるから意見はあとで述べたい。人口問題については大事なことはわかるけれども、しろうとであるというふうには御謙遜になつておるのでございますが、これをかりに正直に見ますと、こういうところにはまず第一に問題があるのではないかと思つたのでございます。人

口問題は、これはどなたでもすぐわかる問題なのでございますけれども、それだけに非常によくわかっているようで、案外お知りいただけがなければならぬことで御承知をいただけないことがあるのではなからうか、こういうような気持ちいたします。

日本の人口の問題は、今まで人口減少の問題が問題になりましたことは一回もございませんので、おしなべて人口の増加が各方面に圧力を与えるということになって来ておるわけであります。その点につきましては、社会の認識は普及しておるのではないかと思うのでございまして、ただ、そのような人口の圧力の関係というものが、前々回の会議の際に、人口問題研究所の方の研究の成果を一部御説明をいただきましたが、それらからしわかりますように、非常にかわつて来つつあるのではなからうかというふうに思われます。そういうような点からいたしま

すと、人口の圧力というものを重大な問題とするというような場合には、
できるだけ社会全般で、そのような圧力がどのような具体的な形で出て
来るのかというこに對する誤りのない認識を持つていただくことが、人
口問題を扱う場合の最初の重要事案ではなからうかと考えるわけであり
ます。最近の人口の圧力がどのような新しい形をもつて来つつあるかと
いうようなことは、ここに私が申し上げるまでもなく、ここにおいてに
なる方は、すでに御承知のことでございますので、それ以上のことはこ
こで申し上げる必要はないと思ひます。

もう一つ、この社会でできるだけ人口問題についての眞実をよく知つ
ていただくようにすることが第一の必要事であるということに次ぎまし
て、第二には、日本の人口問題は、これは世界でも耳にたこができるほ
ど言われている問題ではないかと思ひます。従いまして世界の日本の人

口問題に対するいろいろな反応と申しますか、これも今までにかなり出
尽したような感じもいたしますけれども、人口に対する研究その他たと
えば国際連合の経済委員会その他に出される専門家の意見その他など
中には、私はごとと寡聞でございませけれども、世界の人口問題について
必ずしも悲観的な見方だけをしている人はかりおるわけではない。また、
そのような議論をされておる方の中には、日本の人口問題について非常
に好意的な見方をしている人も決して少くないし、そのような人の中に
は、その人の発言が相当有力な影響を国際社会に与えているというよう
な人もあるようでありまして、私どもとしましては、もちろん日本の人
口問題は日本の人口問題なのでございませから、われわれの手元でこれ
に対する対策を立てて、人のやっかいにならないということが第一の必
要事であるとは思いますが、今日の国際関係から申しまして、日

本が鎖国の状態におるなどということは、これは本来考え得られないことなのでございますので、世界の日本の人口問題に対する理解を進めてまいりますとともに、ただいま私が一、二考えたような日本の人口問題の解決に好意的な見方をもつてくれるような議論が出て参ります場合には、できるだけそういうような世論を喚起する機会を失わないように、いたすべきではなからうか。こういうようなことも第二に感じたわけでございます。

なおそのほか、今の日本の人口の圧力を今後どういうふうにして、日本の将来のために、支障ないように解決して行くかという点については、一、二の考えもふだん持つておるわけでございますが、これは今後そのような問題が当審議会で御議論になる場合に、私の意見も述べさしていただく機会を持ちたいと思っております。率直に申しまして、日本の出生率が今

后どういふふうになるであろうかということ、家族計画というような問題が非常に密接な問題があることも事実でございますし、また今後十数年にわたって教育を受けなければならぬ者の数がふえて来る。いわゆる二部教授というような困難な問題がますます激しくなるのではないかと、かということ、さらに、それにすぐ追いかけて、非常に多量の職を求め、生産年齢階級が増加して来るであろう。こういうようなことか、らいたしまして、産業教育をいたしますにも、あるいはまた、そのような要職業人口と申しますが、要就業人口と申しますが、そのような人口を日本の経済の発展とうまく結びつけたような形で生産と結びつけさせる、それには、どのような産業計画を持ったらよいかということ、が非常に重要な問題になるように思います。これは私が経済の問題を研究して、おる関係から、そういうことを主として考える向きも、おると思っております。

れども、人口問題の今後の解決のために非常に必要なポイントではなからうかというふうに考えております。それらの点についてのこまかいことは別にあらためて機会もあることであろうと存じますので、その際に機会を与えていただきたい。こう存する次第であります。はなはだ粗雑な意見でございました。ごく思いつきでございますが、一言申し上げます。

会長 次に諸井委員

諸井委員 私は結論から申しあげますと、まるっきり野放しにするというか、ふえるままにしておくということは、これはいろいろな点において考えなければならぬ。ある種の家族計画というものはやはり持つように政策をとって行くことはよいと思うのであります。しかし同時に不幸にして人口問題が戦後非常にやかましくなつて来ておりますが、戦後

から今日までの経済状態というものは、日本の長い将来の長期の人口問題を考えるのには非常に不適当な時期である。この時期だけをとりえて日本の将来の人口のあり方をすぐきめてしまうということは、私としては時期が非常に悪いと考えております。社会の各層における人口問題は、らくるいろいろな問題というものは、私は見聞がはなはだ狭いのですが、自分の関係しておる工業という方面から見ても、農村の過剰な人口がわれわれの工場に来て働いておる。そうしてそこで家庭をつくって行く、またそこで子供が生まれて来る。その子供に適切な教育を与える。今度その子供たちが学校を出て職業を求めて行く。そういういろいろな移りかわりを始終見ておるのであります。やはり、ときに、あまりに野放しにされておって、人が多過ぎるために、いろいろな面があるということを感じるのであります。そこにある程度の家族計画

があれば、もう少しいろいろな気がうまく行くのではないか、こういうことをしはしは痛感するのであります。また日本の産業とか経済とかいうものの相当将来を考えてみても、どんどんふえて行く人口を又なここに吸収し得るか、その確信があるかと言われると、いかにふえてもそれを又な吸収して行くだけの資源と技術というようなのが日本にあると確信をもつて見通せるということには、なかなか困難ではないか、たれも言えないことではないかと思つてあります。ただ、しかしながら御承知のように戦争によつて日本の資源は非常に少なくなつた上に、日本の生産施設は極度に荒廃をしましてしまひまして生産力は非常に低下した。そこへ持つて来て、海外から帰つて来た人やいろいろな事情で賑を求め人口は非常にふえて来た。戦後いろいろな施策によつて、日本の生産力は急速なる回復をして参りました。見様によつては八年、九年、十年

前のレベルに対して、今日はそのときよりも産業力が増加しておるとい
うような状態まで回復して参ったのでありますが、しかし何と云つても
今日までの日本の産業は、戦后非常に悪い状態に置かれておつたわけで
ありまして、また一方において眩を求め人の数だけでは非常に心えて
来た。こういう状態において日本の非常に長い将来に関係を持つ人口問
題をすぐ取上げて、これに非常に悲觀的な結論を与える。もう極度に人
口を調節すべきだという結論を導くことは、産業の方面から見ても少し時
期尚早ではないかと感ずるのであります。それならば、日本の産業とい
うものが、今后増大する人口をどんどんと收容して行くだけに發展して
行くかどうか、こういうことになるわけでありまして、これも非常にむ
すかしい向題であります。私どもはもう日本の産業がすぐ立直つてど
んどんエクスパンションをして行くのだという結論を改すこともなかなか

のであります。ことに、皆さまご承知のように、本年あるいは来年、こ
こ西三年というものは、日本としては非常に経済的にむずかしい時期で
ありまして、日本が拡大して行く発展性のある経済になり得るか、それ
とも、もう発展のない行き詰った、反対に縮こまって行くような至済に
落ち込むか。こういうことは、ある意味においてここ西三年の間にさま
つて来ることでありまして、私共も昨年来そういうことに非常に考え
まして、われわれ至済人としてはこれに対してどう対処するか、いかに
して発展力のある日本経済の基盤をつくり出すかということを考えてお
るわけであり、まただんだんとそういう方に向って認識なり施策が進み
つつあることは非常に喜ばしいことであると思つております。しかし
私ども何とかここ西三年において眞の日本経済自立の基盤をつくり出す、
これはただ自立の基盤ができただけではいけないのでありまして、自立

の基盤がでさ、そして今後年とともにだんだんと発展の経済でなければいけないわけなのであります。そういう方面にぜひ向けなければならぬ。これは至上命令であって、ぜひそうするよりほかの道がない。またみんながそのつもりでやれば、そういう経済的基盤は必ずつくり出せるものだというふうには私は考えておるのであります。もちろん発展の速度とか、あるいはそういう発展的経済になるまでのわれわれの苦しみはどの位のものかということについてはいろいろな問題があると思惟います。ただ、そういう成り行きにおいて、今までのような人口問題には非常に悲觀的な見方を持つということは、私としてはどうも少し尚早であり危険である。終戦後から今日に至るまでの状態だけから考えて来て、将来の人口のあり方を考えてやっつけてしまうと、将来において悔を残すようなことがありはしないか。大体、空済がある程度の発展段階に達しました

ときに、人が足りないこともないかもしれませんが、最も有用に働く階
階に働く階層がどうも非常に少なくなつて来て、人数はおるけれども、す
でに活動期を過ぎた年寄だけになつておるといふふうな問題もなさにし
もあらず、そういうようないろいろな点を考慮に入れて人口問題を考え
て行くべきではないか、もちろんそれでは野放しにしてもよいのか、危
険はないのかということについては、先ほど申上げたと同様でありまし
て、若干の家族計画というものを持たなければ、住居の問題にしまし
ても、教育の問題にしましても、就職の問題にしましても、あるいは食糧
の問題にしましても仲々困難でありまして、そういうことは考えて行か
なければならぬが、ただあまりに最近四、五年間だけのデータに基いて
すぐ結論を出してしまふ。もう一つ言えば、非常に悲観的な見方をする
ということとは警戒すべきではないか、こんな考え方を持っております。

会長

続いて藤田委員に頼みます。

藤田委員

私もこの前欠席いたしましたして、申し訳ないのでありますが、皆さまの御意見を十分拜聴してないのであります。しかし、この人口問題審議会なるものの根本をここで考えますならば、私はいま人口問題を審議するのに、大まかに三つ位の問題があるのではないかと、こういう具合に考えております。

まず第一は、今の経済政策の問題であろうと思ひます。もう一つの問題は、今の産児調整、第三は移民の問題、こういう問題が焦点になるかと考えます。今、日本でこの人口問題に關係して論議の行われている審議会には、内閣にある失業対策審議会があり、また、労使が労働問題懇談会という形で労働省に行つて問題を論議してゐる。こういう問題と非常に關係のある問題じやなからうか。

向題の第一矣から申し上げますれば、このような中で、根本的には購買力の向上と雇用増大、完全雇用という形の政策を出して行く、こういう問題に肉連して人口の問題が論ぜられる。たとえば、今の労使の関係はどらなっているか。働く者の生活はどのような状態にあるか。というような問題を考えて、その中の日本の全体的な人口問題に入らなければならぬ。こういうぐあいには私は考えるのでありまして、まず日本の経済政策の中において、今の経済政策でよいのかどうかという根本的な向題に入らざるを得ないのであります。でありますので、人口が毎年百万ふえて行くという現象の中で、これが取上げられておる。しかし現状において、それでは働こうとする意欲のある者を働かす条件がすっかりよくなったのは、つくり出し得ないかどうかという問題になるのであります。そういう観点からものを考えて参りますと、どう

しても今の政治のあり方、たとえば單に日本の人口を八千何百万と申し
ましても、日本を取巻く各国があるわけでありませう。非常にたくさん
の広い土地の中に、種々の民族が生活しているという向題も考慮の中に入
りませう。しかし、何といつても、今の日本の人口で、このアジアを
中心とした貧困を解消するという建前であつて、われわれが経済政策や
その他の友好関係を結ばねばならない限りにおいては、私は非常にむず
かしい問題があらうかと考えるのであります。だから、三つの総合した
委員会や審議会が行われておりますけれども、根本的に日本の経済政策
を今のような形から平和産業へ切りかえ、国内、国外の購買力をどうし
て上げて行くか、そこに觀点を置きまして経済政策を樹立して行くとい
うところに一番大きい問題があらう。国内的に申し上げまして、そうい
う観点で経済政策を立てて行きますならば、決して今の八千何百万とい

(27)

人口が余るといふ観念には立たないと思ひます。

そこで向題になることは、何といひましても、優生的な向題やそれからまたまた人口調節の向題、これは技術的な向題にならうと思ひますけれども、この向題も眞剣に考えなければならぬのであります。今率直に申し上げたいことは、今の産児調節、要するに産児調節というものが妊娠中絶という形において行われておる。ところが妊娠中絶する前の受胎の問題と申しましようか、妊娠をするまでの対策に欠けているのではないかということさ、私は考えているわけでありませう。そこで、自分の生みたい子供は自由に生むのでありますけれども、しかしどうしてもあのやみの妊娠中絶から母体までもこわしてあるというような向題は眞剣に考えなければならぬということさ第二に申し上げます。

第三に、移民の問題でありますけれども、私は、数字的にいつて、今

の狀態において人口が多い、だからこれは移民の口を見つければよいではないか、こういうことには参らないと思ふのであります。私らが移民の問題を考へるとするなれば、その国、その土地の開発、その国の公益の福祉に貢献するという立場において移民問題を考へない限りにおいて、ただそこで集団をつくつて、またそこへ権力を移住するというような形の移民は考へるべきではないという觀念に立っているわけでありま

す。

以上大まかな問題矣を申し上げたのでありますけれども、第一の問題は、今のような国民の生活を無視したような經濟政策というものに向て矣がある。だから根本の問題は、国民の購買力を上げ雇用増大をし、完全雇用をするという政策の中において、この人口問題を論議する。そうすることによつて、日本の産業、生活問題を考へるところにまず第一矣がある

のでありまして、そういう問題を中心にして今行われている問題に関連して調節の問題や移民の問題という骨を入れるべきではなからうかというふうに考えているわけであります。

会長　皆さま御承知の通り過敏厚生大臣の更迭がありました。ただいま草葉新大臣がお見えになりましたから、一応大臣のごあいさつを承ることにいたします。

草葉厚生大臣　御紹介をいただきました草葉でございます。今回厚生省の方を受持つことになりました。何かと今後お世話さまに相なると存じますが、よろしくお願いいたします。

実は、人口問題は従来から日本にとっては最も大きな問題でありまして、各方面でそれぞれ検討されて参っておったのであります。ことに私は、戦後のいわゆる平和条約の締結というものについても直接その責任

の一端を負うようになりましたが、御承知のように国土の約四割五分程度を失つて独立をするということになりました関係上、新しい日本の今後の一つの大きい問題として、人口問題の方針の確立をいうことは、国家として民族として、最も大きい問題と考へて参つたのであります。幸いに本審議会にはその道の各委員の方々が御熱心に、これを御検討いだいておることを拜承し、本日、その総会の開かれることを承りまして参上いたした次第でございます。こういう意味におさまして、人口問題の根本的な一つの方針の確立というものは、現在では厚生省の一つの範囲に入つてはありますものの、国家全体の立場、あらゆる面から御検討をいただいて、国家として、民族として、その方針の確立を急がれておる最も緊要な問題と存するのであります。どうぞ今後とも審議会におかせられました、十分御検討の上、方針を確立いただきまして、私どもに

お示しをいただき、また国民にお示しをいただきますよう衷心念願をいたしておる次第でございます。今後その他の問題についても、これに連続する問題等については、御知識を多くお持ちになつておられる皆様でございませうから、何かと御指導のほどを表心からお願いを申し上げます。一言ごあいさつを申し上げます。

会長 石井委員

石井委員 私は前二回の会合に出席をいたすことができませんでしたので、委員各位の御意見を承る機会もございませんでしたと同時に、いろいろよく考えてみる機会を持たなかつたものであります。従つてまともにこれと申し上げることができませんので、この審議会において御審議になり、また研究を進められるその方向というような

のについて申し上げてみたいと思つております。

私は農業関係の方の仕事をやっておりますが、人口問題というものは、絶えず農業関係の問題につきまとう問題でございます。御承知のように、日本の農村における農家人口の趨勢はまこと困難な事態になつておりますと同時に、日本全体としての増大して行く人口に対する食糧の供給という関係におきまして、将来はたしてどういふ関係になつて行くかということが絶えず問題になつておるのであります。この人口の将来の傾向というものについて、国全体として確定的な見通しを立てるといふことが、まずより大事なことではないかと思つております。人口問題研究所、その他の機関、また学界の方面においていろいろ御研究が進行してあるのでありますが、それが一つの今後の経済問題なり社会問題なりの考え方、取扱い方についての国全体としての基本方針の前提とな

るという意味において、一つのはっきりした見透しがどうも確立しておらないように感ぜられるのであります。それで、人口問題ということか絶えず論ぜられてはおりますけれども、これが反映して、経済政策なり社会政策なりの上にはっきりとした筋を通すというところまでは、どうも進んでおらないように思うのであります。われわれの身近かな問題としての食糧の増産問題にいたしましても、人口問題との関連においてはっきりとした見当をつけるということがどうも行われにくい、具体的政策の実行においても、そういう点からはっきりした、またしつかりした永続的な方針がどうも立ちにくいといううらみがあるように思うのであります。

そこで、この審議会としては、いろいろ御審議になることがあろうと思えますが、まず第一は、人口の趨向について、これは一つの仮定を設け

ることは必要であるかもしれませんが、ここ何年間においては六
体こういう趨向をもって進むということをお前提にしてものを考えなければ
ならぬというその趨向についての各方面のはつきりした意見の総合せら
れた。いちば確論をひとつこの審議会で見通しとしてお定めになつて行
く、それに基いてそういう必然的な趨向に対処して、経済の面、社会的
な面についていかなる事項を重層的に取上げて実施することか必要であ
るが、この人口の必然的な趨向を基礎にして向題点を提起するといふと
ころからお入りになることが、人口問題を審議する上において一番必要
ではあるまいかと考えます。とりあえずそれだけのことを申し上げまし
てお考えをいただきたいと思ふ次第であります。

会長 田宮委員

田宮委員

私ただいまの石井委員の御意見にまったく同感でございます。

同じことを繰返すことになりしますので失礼させていただきます。

会長　それでは他に御発言の方がありませんでしたら、どうぞお願いいたします。

北岡専門委員

本日の御案内状に、この審議会に於てどういふことを審議すべきか、そのためにどういふ部会にわけたらよいかといったような向題が提起をせられたように思いますので、それに対して私の平素考えておることを申し述べさせていただきますと思います。

皆さま方の御意見をいろいろ伺っておりますと、私は審議会において審議すべき事項が四つになると思うのであります。第一は人口、重複しますが丁寧にいえば人口の数、その人口の数を一体どうするかという問題であろうと思う。日本の国が人口過剰であるということについては今日、上は大臣から下は小学校の生徒までほぼ一致しておると思います。

けれども、しからば、この人口をどうすればよいか。多すぎるなら減らそうかということになり、ちよつと待つてくれということになる。これに賛成してよいのやら反対してよいのやら、国民の意見が一致しないと。ある者は、そんなに人口を減らしたら日本の民族が弱体化する、結局それは日本の民族を減ぼすものだという極端な意見があるかと思うと、ある者は、人口がふえれば、日本はまた侵略国になるだろうとか、あるいは、日本の国は行き詰まって共産主義革命が起るだろうというよくなことを言う者もございまして、この人口をこのまま放つて置くことが、日本の国の民族の発展、国民の幸福、社会秩序の維持ということについてよいのか悪いのか、輿論の帰趨がないように思う、私は、この向題について輿論の向うべきところをはつきりと示すということか、この審議会に課せられた一番大きな向題ではないかと思うのであります。と

うも両極端の説がありました。たとえば、サンガー婦人は、戦争直后、日本は今後十五年くらいは子供を生まなかつたらよいだろうといいますが、そういうことを信じませんけれども、どこかに書いてありました。もしそうしますれば、諸井委員が心配されましたように、たとえば今後十五歳までの年令層はなくなるのだし、その後十年間続けば十五歳から二十五歳の若い者はなくなると思う。国を守る青年もなければ、産業を興す勞働者もないということになりまして、それこそほんとうに国が滅びるのでありますから、もとよりそんなことはできない。人口と申しまして、一つのまとまつたものでなくして、いろいろな年令の階層でありまして、しかも現在生まれてゐる子供はどうすることもできないのでありますから、われわれはそう簡単にいえない。そこで、本審議会で大体日本はどのくらいの出産率もしくは出産数があることが、日本の国の

平和、繁栄、幸福ということに一番よいのであるといったような数字がかりにでますれば、これが一番望ましいと思うのであります。この部会は、人口そのものの政策でありますから、人口政策部会を名づけず、か一番よいと思うのであります。しかし人口政策といえは一切の政策を含んでおるようを感じる方がおられるかも知れません。又人口の数をどうすると申しまして、現在人間の生命尊重ということも、もうだれも異見のない問題であります。結局これは生まれる者に対する方針の問題でございますから、あるいは産児調節部会といつてもよいし、あるいはもう少しカムフラージュした名前として、家族計画部会というような名づけられてもよいと思うのであります。私はこの問題を取扱う部会はぜひ必要であると思う。これはその方法等に至りますと、なかなか容易な問題ではございません。ぜひこれを取上げなければならぬと思う。

次に、第二の問題は、日本の現在の人口及び将来の人口というものを

一つの与えられた条件としまして、これに対していかなる政策を実行して行くか、言葉をかえて申しますれば、日本の國としていろいろの政策に対して人口問題をおかひに反映させるかという問題でございまして、これは通商産業の問題、食糧増産の問題、失業問題、労働問題、いろいろな問題に

あたりまじょうが、これは現在でもすべて考えられてある問題でござい
ますけれども、しかし、ややともしれば人口問題というものをネグレクト
トするおそれがある。わが國は最近非常な緊縮政策をとりまして、失業
者が出てもしかたがないというをいつておりますが、一体その失業者の
中には、現在就業している者を解雇するというだけを考えておるのか、
将来年々七十万もしくは百万に近い新たなる転職をつくらなければ、そ
れだけ日本は失業者が出るわけなのであります。その年々増加しなけ
ればならぬ転職までも考えるのか、その真は私は疑問ではないかと思ふ。
年々七十万、八十万あるいは九十万くらいの転職を新しくつくらなけれ

ばならぬのだということを考えますれば、私はいわゆる緊縮政策に対してもよほど考えなければならぬのではないかと思うのでありますが、そういう諸般の政策に対しまして、人口問題の見地からいろいろな意見を發表することが必要じやないかと思う。この問題は非常に多岐にわたりますから、どういふようにこの問題を取上げる部会を名づけてよいか、ちよつと私も迷うのでございますが、主たる矣は経済政策で、日本の現在の人口、将来の人口を諸種の条件と考えまして、これにどうして適当な職業と生活物資を供給するかということでございますから、私は、これをかりに経済政策部会と名づけたらどうかと思うのであります。もとよりそのほかに教育問題も労働問題もございませうけれども、主たる矣は経済政策でございますから、私はこれを経済政策部会と呼んたらどうかと思うのであります。

第三矣は、移民の問題であります。移民という問題は現実の問題とし

ましては、数の問題におきまして、わが国の人口過剰の問題をほんとうの意味において解決するものではないでしようけれども、しかしながらこの狭い土地に住んでいる者に対して、多少なりとも窓をあけて新鮮な空気に触れるような気持ちを与えるということは、非常に大事なことでありますし、この問題に対して諸外国の了解を得、また国民の力を結集するということは非常に大事なことでございますから、現在の可能な移民の数が少いということでもって、この問題をネグレクトしてはいけないので、やはり人口問題と密接不可分の関係にあるものは移民問題でございますから、この問題につきましましては、幸い専門家をおられるようございいますから、一つの部会を設けて研究していただくかどうかと思うのであります。これはもとより移民部会と名づけられたらよいと思うのであります。

第四の最後の問題は、民族の資質の問題であります。民族の数の問題と相並び、もしくはそれ以上に民族の素質の向上ということが非常に大事でございます。現在優生保護法というものがございしますが、優生保護法の取扱っておるものは、要するに、ほんの数百という程度のものでございまして、学問的な内容に意味はございますけれども、八千万国民の資質の改善という気から申しますれば、なおなすべき矣が多々残されておるように思う。この問題について本審議会として優生部会といったような名前の部会を設けられて研究されたらどうか。

要するに、私は人口政策部会、経済政策部会、移民部会、優生部会、この四つの部会を設けられて、今申し述べたことについて審議をして、国民に対して一日も早く向うべきところを示すようにしていただきたいと思うのであります。

会長　ただいまの北岡委員の御意見に關して、なお他に御意見の方がある
つたらお述べになつていただきたいと思ひます。

松岡委員　ただいまの北岡委員の御意見に私大体賛成であります。一
般産業の問題ただ一つじやどうだろうかというように、私は思うのであ
ります。というのは、食糧の問題だけはひとつ別の委員会をおつくり
なることが必要ではないか。優生学的な人口調整ということの結論が
りにでき上つて、適正な人口、あるいは移民などが成功的に遂行され
といたしましても、日本における食糧問題はきわめて重要な問題である
と思ふのであります。当審議会においては、一般産業という中に食糧増
産あるいは食糧問題を包含しないで独立の特別委員会をつくるべきでは
なからるかというふうに思ふのであります。ただ私の意見を簡単に申し
上げたわけでありませう。

会長

ただいま北岡、松岡両委員からの御意見がありました。御手許へ配付したのが特別委員会の規定でございます。私もそれに参加して話し合つたのでありますが、人口問題は、皆さん御承知のとおり各般に相関連しておりますから、これをどういふ具合に別けたらよいかといふことは、非常にむずかしいのであります。と同時に、その特別委員をお願いするのに、その一部だけではなくて、やはりそれに関連して他の方の部にも出ていたいただきたいという方もむろん多うございます。それで初めから今のように食糧とか労働とか、失業対策方面にすつとこまかくわけたそれぞれ委員会をつくろうという案もありましたが、結局お手元に差上げたように大体わけて、一つだけの名前でもなカバ―するといふことも困難でありますから、一部会、二部会という名前にしまして、今度また食糧問題は食糧の問題、移民の問題は移民問題、また国内の人口の分布

とか、いろいろな問題がそれぞれありますから、それは各部会の中でそれぞれまた小委員会をお願いするということのようなことにしたならばどうかというので、一応この案をつくって、今皆さんに御配付した次第であります。そういう意味でこの案で御進行願うということではいかがでありますか。

宮崎委員

ちよつとこれを見まして私どもでわからないことがたくさんあるのであります。一応どういふつもりでわけられたのか、この文句はどういう意味なのか、白書に關するこの特別委員会がなぜ必要なのかということ、一通りだれにもわかるように御説明願えた方が皆さんわかりがよいのではないかと思ひますが、いかがでしょう。

会長 係の方から説明をしていただきます。

館専門委員

それでは会長の御指名によりまして、人口問題審議会の部

会と特別委員会の規定について簡単に御説明申し上げます。

これは会長並びに会長代理の御指示を受けまして、これまでいろいろ承りました各委員の御意見をとりまとめまして、さしあたり二つの部に分けたにとどまるのであります。御審議の状態によりましてさらに部会を追加するなり、あるいはこの部会の中に小委員会を設けられることを予想いたしましたか、一応二つの部会に分けてみたにすぎないのでございます。

そこで、これまで承りましたいろいろの御意見の一つの重点は、人口の量の調整という問題と人口の資質の向上に関する問題でございます。この二つの問題を第一部会としてとりまとめたいわけでございます。もちろんこれは第一部会の中で人口の量の調整と資質の向上とを二号に書きわけておるのでございますが、もとよりこれは相互に関連する問題であ

りまして、量の調整につきしても資質の向上を無視するわけには参りません。従つて、相互に関連する事項でございますが、一応これを二本にわけて書き上げたのでございます。

それから第二部会における御審議の項目として、「人口構造の変動及び人口支持力に関する事項」とお手元におまわしいたしました原案になつておるのでございますが、これはちよつと御訂正をさせていただいたほうが適當であるかと存じます。御迷惑でございしますが、印刷の手違いで間違いましたので、これは、「人口構造の変動及び人口支持力の関係に関する事項」と、同様に二のほうの「人口の地域的分布の変動及び人口支持力に関する事項」とございすのを、「人口の地域的分布の変動及び人口支持力の関係に関する事項」というように、「の関係」という字を御追加いただきとうございます。これは今まで承りました御意見の中

で特に人口の構造、たとえば生産年齢人口の問題でございませつか、人口の構造が過去現在将来にわたりました変動いたして参ります場合に、特に人口の構造の変動とにらみ合せまして、かような見地から見ました人口支持力との関係に関する問題でございまして、さわめて広汎に及んでおるわけでございます。

なお人口の構造と申しましても、いきなり構造だけが考えられるわけではございませんので、人口の数もしくは人口の大きさと呼ばれるものが当然に前提とされておるのでございます。ある一定の人口の大きさあるいは人口の数における構造の変動と、これを養うところの人口支持力との関係を御審議いただく、かような関係でございませつか。従つてこの中には当然に生活水準の問題、資源の問題あるいは産業構造の問題が含まれてよいわけでございます。

第二号の人口の地域的分布の變動及び人口支持力の關係に關する事項と申しますのは、ただいま第一号で申し述べましたのは、縦に主として日本の経済力あるいは日本の産業構造全体を予定しての考え方でございまして、これに対して第二号のほうはこれを横に地域的に考えまして、各地域の人口支持力と人口の地域的分布との間の均衡に關する問題、こういうふうにしてとりまとめたものでございます。なお、この中に「地域的分布」と申しますのは、多少読みにくい矣もございまして、国内の地域的分布ばかりでなしに、國際的、世界的な地域的分布も考慮に入れる。この意味におさまして、移民に關する問題等もあわせてここで御審議いただければ結構かと存するのでございます。たいへんに広汎な課題を含んでいるのでございますが、一部会と二部とに大きくこれをわけた次第でございます。

さらにこの部会のほかに特別委員会を考へておるのでございます。それはこの案の第二條のところでございますが、これは特に現在の人口の実態を研究して、人口の実態を明らかにする。その人口の実態を明らかにいたしますことが各部門における御審議の基礎材料にもなる。こういったところか、もちろん人口の実態についての研究はすでに存在し、また各所にあるわけでございますが、審議会としてこれをとりまとめたしまして、一つの比較的体系を持ちました人口白書とでも申しましようか、さような人口実態の分析の結果を統合する。こういうことを予定して、これまたこれまでの部会等に対しては性質のやや異つたものになるわけでございますが、いわば人口白書に關する起草委員会といった意味を含めまして、このような特別委員会で人口実態の分析の結果を統合していただきまして、人口白書とでもいうべきものの基

礎材料が御審議せられるということになれば、けつこうなのじやないかと考えた次第でございます。

このようにいたしましたして、さしあたり部会としては第一部会、第二部会それから人口実態の分析という意味からこの特別委員会、こういうように分けまして一応書き上げた次第でございます。

会長 別に御意見もありませんならば、これで御承認を得たものといったしとうございます。なお、そういたしますとこの委員の方々をお願いするのでありますが、もし御意見がなければ私のほうへ御一任願えると仕合せです。

藤田委員 いま会長のほうから出されましたこの案でございますが、第一部会において日本の資源や産業構造や、地域の問題については国内的にも国外的にも、移民の問題についてもやるというぐあい承つたので

ありまして、どうも私の印象から申し上げますと、私は何を申しまして、人口問題は国の政策の方向に基いて論ぜられ、その中の技術的な問題として調節や優生の問題が論ぜられ、または移民の問題が論ぜられる。こういうことでなければ、人口問題の根本的な解決の方向に向かないのじやないかという考え方を持つておるのであります。ところがここに出たものは、これは後とか先とかいうことではございませんけれども、印象的には、いまのさういう根本的な問題には触れないで、調節だとか優生だとか、ただ頭の上で幻想を描いて人口の処理を考えるとという印象をいまの説明では受けるわけでありまして、さういうことでは人口問題の根本的解決の方向には進まないと考えるのであります。だから私は、先ほどの発言の中でも多少触れましたけれども、移民の問題にしても、先ごろの九月にアジアのE.I.O.の会議に寄ってきた国々の貧困をどうするか

こういう関係はどうするかという問題があるの中で十分に論ぜられたのであります。一つの例を申し上げますと、インドネシアの政府代表、産業組合の代表が、長い間のあの欧米諸国との関係を絶って、いま国がほとんどナシヨナリズムに行こうとしておりますが、インドネシアの政策は日本に頼らなければ解決できないという強い考えを持っている。ところが、またまたあの二の舞の侵略を受けるのじやないかという関係で、やつてはもらいたいのが手は出しにくいという関係にある。しかし、またほかの観点からいって、インドネシアがいま何をなすべきか、農業の問題、交通の問題、政治の問題といった問題の教育訓練を日本に施してもらいたいということがありまして、留学生ではありませんが、そういうものを習いたい人を送るからぜひ教えてもらいたい。こういう形で、あの大きな開発をがっちり日本と手を握ってやりたい、こういうところまでい

っているのであって、根本的には、インドネシアそのものの開発であり、インドネシアそのものの公益の福祉を提供するという形の人事の交流という形の移民というものが考えられなければいけない情勢にあるのじゃないか。そういう問題を考えてみますならば、なおさら人口問題を考えるにあたりまして、国の政策そのものがどのようにあり、どこから人口問題を論ずるのかということが根本でなければ人口問題解決の方向には向かないと思う。ところがいまここに出された案の印象としては、技術的な問題を審議会で処理しようというふうで、こういう形では私はどうも納得が行きにくいということを申し上げたいのです。

会長　藤田委員の御意見はこれをどうかえるというのでございますか。

藤田委員　さっき北岡さんが申されたような分析のしかた、あるいは特に食糧問題を考えよ、別の委員会にしたらどうかというようなお話もご

ございましたが、そういった形で、日本の経済政策の論議をした中から調節の問題や、移民の問題を考へて行くというぐあいに部会なんかも組み立てて行くべきじゃないかと考へておるのであります。

北岡専門委員

私の意見ももう少し取入れていただくならば、この第二

部会の書き方が、人口構造の変動及び人口支持力の関係に関する事項、

これは起案者がこの問題に肉して非常にこりつぱな資料をくださること

だろうと思う。その外から申しますならば、この中に現われております

雄大な思想はわかるのでございますけれども、本会のなすべき使命とし

ては、ちよつとよく現われていないように思う。そこで私は、この第二

が第三、どちらにしましてもけつこうであります。日本の人口並びに

人口構造に適合すべき諸政策に関する事項というような一考を入れて、

日本の、主として経済政策だと思ふのであります。経済政策に関しま

して、日本の現在の人口及び将来の人口の数及びその変化、西方でどう
いうふうにしなければならぬとか、そのうち松岡委員のおつしやつたよ
うに、特に食糧問題をさらに重視するならば、その問題をまた第四にあ
げてよい、これはあげるだけの十分な価値があるので、日本の食糧政
策に関する事項ということを入れてもよいと思うのです。とにかく私は、
日本の政策に人口問題をどう反映させるかということを審議するのであ
ろということを入れたほうがよいと思う。單にこれだけを見ますと、ど
うもこの問題に関する人口統計学的の研究並みにそれに関する諸資料の
提供を含むことはわかつておりますが、日本の諸政策に対する本審議會
の意見を審議し、具申するのであるということが現われていないので、
何だか資料の作成に関する学会会議のような感じがいたします。政策を
樹立するのであるということをおぼせられたほうがよくはないかと思うの

であります。

会長　これは私の思いよりなんです。ただいまの藤田委員の経済政策

の根底を立ててそれで進めて行かねばならぬ、それもごもつともであるし、日本の人口問題の審議会ですから、この審議会で日本の現在の人口及び将来はこういうふうに動いて行くか、またどういうふにしなければならぬか、そういう立場からこの白書などでも、自然いまの対外政策なり、いろいろな問題も立てて行かねばならぬと思いますが、すでに他に失業対策もあれば労資の調整もあり、いろいろな委員がそれぞれ立場でやっておりますし、この会はやはり人口問題の審議会でありますから人口問題についてはこういう状態になつておるのだ、今までの内外の事例等によつても、まずこういう方法にやつて行かねばならぬということ、その対策をきめるのと、人口問題がいわば一つの問題が表裏から論ぜられて行

く様な形になるのじやないでしょうか。それで、ここでどういう政策、どういう根本策を立
 てるかということ審議するのは、この会として多少外に出る。人口問題はすべてに直接
 関係は持つておるのですから、皆様方が寄つて十分論議して下さつて一向差支ないのです。

ただ、この会は、どこ迄も人口問題審議会でありますから、その人口問題についても相当
 研究しなければならず、問題の問題でありますから、これで御解決願ひましても、また十
 分徹底して審議して決めようということなら、これも決して完全なものではないのですか
 ら、さらに御審議願つても結構だと思ひますが、何れにしても、人口問題はいま日本のすべて
 の問題に通じて行く、根底になつてありますから、皆さんのご意見で更にこれの論議を
 あ続けになるなり、或いは又、それのための小委員会でもつくつて、そこで御意見を吐露願うな
 りいたしたいと思ひます。経済政策といわず、失業対策でも教育問題でも、どんな問題に對して
 も人口問題がひつつかつて行くのですから、この立場からああしたい、こうしたいということをも
 めもし、又、そういう方の参考にもしたい。又、前から屢々申しておりますが、現在の問題の解決もあ
 りば、長い将来にわたつての問題もありますし、隣国といわず、世界人類の問題も入らなければな
 らぬ、海外の夫々のエキスパートは、日本の人口問題を相当論議しておりますし、又朝鮮
 たり、中国たり、フィリッピンたり、南方方面の人口問題は日本の総ての問題に牽連してくる。
 これは非常に問題が大きいのであります。いま北回委員からは、一部の字句修正についての
 御意見もありましたが、それを議題にしてもよいし、又、藤田委員からも字句の修正等につい
 て御意見があれば、それを承りまして皆様にお諮りしたいと思ひます。

山中委員

ただいまの会長の言葉に対して意見を申し上げさせていた

きたいと思ひます。部会を二つに分けて進めろということ、この御案

の説明を伺ったのですが、それに関して藤田委員から、経済政策の向題

が非常に重要ではないか、この第一部会、第二部会という順序からする

と、第二部会が経済政策関係のものだと思われるが、それが第二になつ

ておることは、それが第二次的な形になつておるように見える、またこ

の字句からして、そう問題を一切考えないようにも見えるじやないか、

こういう趣旨の御主張だったように思うのです。こまかいことを伺わな

いと完全にわかりませんが、お伺ひした限りでは私もその御意見に賛成

なのであります。北岡さんの御意見と藤田さんの御意見とをまっとう違つ

じやないか、という気持もいたすのであります。私としては、や

はり藤田さんのおつしやるように第一部会と第二部会というのは順序で

あつて、第一の次に第二が出てくるというふうには、もしお話しになられたとすると非常に重要な問題を審議しないで、とくにきめてしまつたようにもなりますし、かたがた私個人としては、そういう内容的な順序のきめ方については若干疑問を持つておりますので、そういう意味で第一、第二がありますと御賛成しにくいような気がするのであります。ただ、いま会長から御説明がございました、もちろん人口問題の審議でございますので、人口問題を離れた審議がこの中に入つてくるというふうには考えられませんし、問題の性質上、これは非常に大きな問題でございすから、これに關係する各級の文化教育政策、経済政策が一番大事だと思ひますが、それらが關係する限りにおいて、ここに入つてくることはさわめて当然なことだと思ひます。その軽重なり、深淺なりは御審議の過程において十分にお考えいただくように願ひたい、こう思ふわけであ

ります。この審議は、おそらく報告書をつくりまして、それに対する審議会の華美の把握と、それに基くいわは対策を社会に示すということになるのではなからうかと思ひますので、その旨はあまり初めから限定的に、ここでおきのいたたぬないほうがよいのじやなからうかという感じがいたします。その意味で、第一部会、第二部会という順序を、私は実はこれを拜見いたしましたときに、第二は第一の次にくるといふうには読まなかつたのですけれども、ただいまそのような疑問が委員の方から出たような関係もありますので、少くともその旨はそうではないといふうに、ここでは御了解いただきたい、こういうふうにしてお進めを願ひたいと思ふのであります。

そのような意味合いからいたしまして、これは御苦心の察なのでございまして、先ほど幹事のほうから「の関係」という三字をお入れに

なりましたけれども、私もこの誤植の訂正を伺った際に、先ほど北岡さんが何か学術会議の人口分析の項目を示されたような感じがするとおっしゃいましたのと同じような若干の昏迷を感じたのであります。第一部会のほうの問題の指摘と同じように、「の関係」でなくて「の調査」とか、私は発展とか向上とかいう言葉がよいのじゃないかと思えます。

「人口問題の構造及び人口支持力の向上に関する事項」というふうに入れになりますと、藤田さんのお考えになりましたような疑問もおそらく解消するのではなからうかと考えられますし、かたがた私個人の問題に対する意識という点から申しましても、この点に非常に大事なポイントがあるように常々考えておりますので、できますならば、その点を率直に審議事項の文句の中にお認めいただけますとたいへん好都合だと考えます。

那須委員 第二部会のことについて申し上げますが、経済政策それ自身

を深く突込んで議論するということになりますと、会長のおつしやつた

ように、この審議会の審議事項の範囲をやや逸脱するような感があるの

でありますけれども、しかしまた会長もいわれましたように、人口問題

は経済政策なり、いろいろ／＼なこととの関係において考えられなければな

らない、ところが、その意味合いが第二の一「人口構造の変動……」と

いうこの文句の中にはあまり現われておらないのです。それで私は、こ

の「人口構造の変動」というあとに「人口の産業別分布、労働の生産能

率等」といふのを入れたらどうかと思います。「等」といいますのは、

なおつけ加えれば生活水準でありますとか資源でありますとか、いろい

ろ出てくる。それ全部をここに書き上げることにも煩瑣でありますから、

「等々」くらいにして、いま申し上げた二つくらいを加えますと、藤田

さんのおつしやつた経済政策の問題等が労働の生産能率に關係して参りますし、また人口の産業別分布にも非常に關係してくるのであります。就業率等もここに現われて来ますので、それを入れたほうがよいのじやないかと思ひます。第二には地域的分布ということが入つておりますし、これとの關係から又ましても、産業別分布くらいは当然入れておかれたほうがよい。これがなくて單に人口構造の変動となつておりますので、いろいろと先刻末の御疑問が出たのじやないかと思ひます。そういう意味で、もし字句の修正をお考へいただけるならばたいへん仕合せだと存じます。

宮崎委員　この案そのものにつきまして、私もちよつと意味のとりにくいものがありました。質問したのでありますが、本日ただちにこれをおさめ願はないで、今日初めて皆様の見られた案でございますので、一応お持

ち帰り願うことにして、会長のいわれたように、小委員の五、六名もお送
びになつて、この次の機会までに小委員の御意見をまとめておいて、そ
れをもとにして御審議願つたらどうかという気がいたします。というの
は、人口問題審議会の部会というものは普通の会議の部会と違って、内
容はさわめて複雑であり、しかしてその部会のわけ方によつて審議方法
なり順序なり内容なりがわかるわけでございます。私はこういうものに
ついては相当念を入れてしかるべきものであると存じますので、本日御
決定を願わないのでこの次御決定を願う。それまでに小委員会でも開い
て御決定願う。そしてその案をもつて行きたいということを提案いたし
ます。

村山委員　大体いま出ております特別委員会の規定は、人口問題審議会
令を受けておる問題であると思ひます。人口問題審議会令はいまお手元

に行つておりますが、第一条に大体六つの事項が出てくるのであります。これを部会におわけになるときに、四号の受胎調節に関する事項、五号の国民資質向上に関する事項、それを一として、そのほかの一の生活水準に関する事項、二の産業構造に関する事項、三の資源に関する事項、六の前各号に掲げるものの外、人口問題に関する重要事項、こういう内容に属するような事項を二というふうにおわけになつて、それをまたまとめるために全体的にお書きになりますと、この案の一のようなむづかしい言葉になると考えますので、大体審議会令を受取るのでございませうから、審議会令では、「人口問題に属し左に掲げる事項を調査審議し」ということで、これは人口問題から範囲を逸脱することはないのであります。したが、ただそのあとに「及びこれに属し必要と認める事項について関係各大臣に意見を述べるものとする。」ということがありますから、も

ちろん経済政策についても意見を述べることは政令の上で当然であるといふことで、こういうふうに書きわけられたものであると私は考えております。そこで、結局この第二部会のほうも審議会令の四号、五号以外の収容力のことをいっているのであつて、これを全体的にいえばこゝなるが、またこれについて関係大臣に必要と認める事項について意見を述べるということも審議会令で当然でございますから、当然これはくつついてくるのである。そういうふうに考えますと、あまりこれはむづかしい問題でなしに当然のことのように思われますし、実は私遠くからくるものでございますから、あまりたびたびこんなことで議論されるのははなはだ迷惑に存じますので、もしよろしければここでさめていただいたうどうかと考えております。

(6)

森田委員

私は、漠然としたことを申し上げてはなはだ恐縮でございます。

すけれども、ただいまここにあげました事柄は、おもしに日本の人口事情がどういふふうになつてゐるか、今後どういふふうに移すかといつた見通しの、いわば学問的な分析をおもに問題にしているようでありま
す。そういうことをしているところは現在すでにたくさんあるのであり
まして、この審議会がもう一度それを繰り返すことはたいして意味がな
いと思つてあります。現在一番欠けてありますのは、日本がこの人口
問題をどこえ持つて行こうとしてゐるのか、それがはっきりしないので
あります。われわれもはっきりしないし、また外国人もそれを疑問にし
てゐる。イギリスで日本の経済が論ぜられております際にも、日本人は
一体あんなにふえて行く人間をどういふふうにしようとしてゐるのであ
るか、それが彼らの疑問でありまして、そのゆゑに彼らは、日本に対し
て非常な不安を感じてゐるのであります。いろいろ人口問題の議論は行

われておりますけれども、日本がその止め度なくふえて行く人口をどう
いうふうにしようとしていっているのか、一体押える気なのか、あるいは野放
しにしておくのか、それをわれわれも知らないし、まただれも知らない
のであります。そのゆえにいろいろの問題が起り、不安が起つてあるの
であります。しかし、審議会の存在理由がもしあるとするならば、その
問題を研究するについて、何かはつきりした方向を打立てるといふこと
でなければならぬ。それでなければ、私はいたずらに屋上屋を架する
ものではないかと思うのであります。そういう意味において、もちろん
ここに掲げられたような事柄について、現在ある資料をまとめて、それ
を整理することは必要でありませうけれども、その後を生れてくる大
きな結論を私どもは初めから重要視して行きたいと考えますので、藤田
委員の御意見に賛成するものであります。どういふ部会をおつくりにな

るにいたされましても、その全体の方向を定める部会が中心にならなければならぬ。またその結論が中心にならなければ、個々の問題についての具体的な今後の政策、方針はさまらぬ。そうしなければ、いたずらに現在ある材料をまとめて整理するにすぎない。そういった仕事しかこの審議会でできないと思うのであります。そういう意味において、部会を設置されますならば、そうした根本方針を議論する部会をひとつ中心にはつきりと打出されんことを、私はお願いいたしたいと思ひます。

会長　他に御意見の方ございませんか。宮崎委員からは、これをディスプレイカッスするため小委員を設けたらという御発案でありました。それから、その他の委員諸君からそれ／＼一部修正の意見が出ておりました。さらに村山委員からはなるべく日を重ねずに進みたいということでありました。私も、お忙しい中を皆さまにお集り願ったのでありますから、

なるべくなら進行が望ましいのであります。これはどなたもそうだろう
と思ひますが、また議論多岐にわたることでもありますか、宮崎委員の
意見によつて小委員会にかけることにするか、それでなければ北岡委員
は初めそれ〴〵修正意見をお出しになつておりますか、それによつて順
を追うて皆様の審議の決を仰ぐことにしますか、いかかいたしますか。
宮崎委員の小委員会を設けて行こうということに御賛成の方の挙手を
願ひます。

(賛成者挙手)

会長、少数であります。それでは、文字の修正については北岡委員、山
中委員、那須委員の御発言があつたように思ひますが、それを一つ一
つ議題に供します。北岡委員のはどういふのでありますか。

(65) 北岡専門委員 3の「第二部会においては、左の各号に掲げる事項を審

議する。し、ということに第三号を加えて、「人口及び人口構造に適應すべき諸政策に関する事項」とする。

会長 山中委員のはどういふのでありますか。

山中委員 私のは一号も二号も、人口支持力の関係に関するといふのを改めて、人口支持力の向上とか発展とかいふ字にして、人口支持力の向上に関する事項といふふうにしたい。第一部会の第二号にそういう字はすでに使われているのですし、この一号も二号もそれでよろしいのじやないかと思ひます。

会長 那須委員のはどういふのでありますか。

那須委員 「人口構造の變動」の下に「人口の産業別分布、労働の生産能率等と人口支持力の関係に関する事項」と入れる。つけ加えて申し上げますと、ただそれに関する事項の材料をとりまとめるという意味には私ども

は解釈してないのであります、このすべてにわたつて、森田委員から御発言のありましたように、これからどういふふうに、これらの事項について、おぼしきをとつて行くべきかという政策は当然研究すべきものだと思います。

会長　それには、そういう意味も入っていると解釈するので、字句はよいのですか。

那須委員　それは特に入れなくても当然だと思います。

会長　藤田委員は何か字句について御意見ありませんか。

藤田委員　私はいまの那須先生のように、この向題が具体的に入つてく

れば、私の意見も大分入れられたと思うのです。印象的には、私はそれが中心だという印象のもとに部会をつくつていたのだと思います。それでないと、一が先になつて、それが骨になつて論ぜられるということになつ

てはおかしい。だから、字句の問題については赤須先生と森田先生などの言われたそれを確認して、部会をつくるということになれば、私は字句の問題にはこだわりません。

会長　　そうすると、第一条の2の第一部会の一号、二号と載つてあるおとに、三号として「人口及び人口構造に適合すべき諸政策に関する事項」というのを入れるという修正意見と、同じ第一条の3の第二部会に第一号、第二号とありますが、その「人口支持力の関係に関する事項」を「人口支持力の向上発展に関する事項」とする御意見と、それからいまの第二部会の第一号に当る「人口構造の変動」のあとへ「人口の産業別分析、労働の生産能率等人口支持力の関係に関する事項」というようにつけ加える修正意見と、三つがここに出てあります。

山中委員

議事の整理について、いま三つおあげになりましたが、お話

を聞いてみましたら、いまの那須、藤田、森田諸委員の最後のお話で、向上というような字に代えなくても私の言った意味ははつきりするのだ、そういうことで、この関係という字句でよろしいのだ、こう意味で賛成するのだというお話がありましたから、その旨さえ確認されれば、私は字をかえるということは、むしろ初めから必要だとは思っておりませんから、私の案はその意味で撤回していただいてけっこうです。

会長　それではいまの意味で山中委員の修正意見は自然那須委員の修正意見に含まれたらどうか、同じようになつたと解釈する。

北岡委員　それで御賛成願えますか。

北岡専門委員　私は意見を固執するわけではありませんが、原案の文句ではどうも学問的な資料のほうに偏して政策の審議が入つておるような感じがするのです。しかし、藤田委員がそれで十分だということならば別に

回執いたしません。

美濃口専門委員

「事項」と書いてありますが、結局方策を御研究にな

るのですから、前のところに、向上発展の方策を研究したり、技術を研
究しなければならぬとお書きになったら、すべてのものは解決するのじ
やないかと思ひますがいかがでしょう。第一、第二を、たとえば「人口
支持力の向上発展に関する方策に関する事項」とお直しになったらどう
かと思ひます。あとの事項をお出しになると、事実を分析したり、その
他の矣で何もできなくなつてしまつて、かえつてぐあいが悪くなるとい
うふうに考へます。

北岡専門委員

私は美濃口君の意見に賛成です。合流いたします。

会長

「事項」という字を「方策」とかえるのですか。

美濃口専門委員

「事項」をすべて「方策」にかえる、……

会長 「事項」というのが2と3にそれ／＼三箇所にありますね。その
初めの主文のほうは「事項」なんですか、「方策」なんですか。

美濃口専門委員 中身は、第一部会のほうは人口の量の調整、資質の向
上というように、一つの目的を持って政策をうたつてありますが、あ
のほうには政策が入っておりません。向上、方策とか人口扶養力、そ
う意味の方策に関する事項というふうにしたらどうかと思います。

会長 2と3に「事項」という字が大々所にある。それを全部「方策」
とかえるといいますか。

美濃口専門委員 「方策」だけでよいかもしれません。しいて事項を入
れば、あるいは「方策に関する事項」でよいと思うのです。

松岡委員 下村先生のおつしやる通りです。主文はよいのです。

(27) 会長 「の方策」というのを「事項」の上に入れようというわけですか。

そして美濃口委員も大体那須委員の御説には御賛成なんでしょうか。

美濃口専門委員

那須先生の産業別分布などというのは例示ですから

結局人口扶養力を規定する要因をひとつあげなくちゃいけない。こういう問題はたくさん出てきますから、これを全部入れる必要があるか、入れるならばしつかりしたものを入れないと……。

那須委員

具体的に全部を入れるのはたいへんだから、私はおもなもの

を例示したのです。私は入っていたほうがよろしいと思います。

会長

そうすると、大体3のところを「人口構造の変動、人口の産業別

分布、労働の生産能率等人口支持力の関係に関する事項」というのが那

須委員の修正意見で、大体はそれに御同意のようでありますか、その「

事項」の前に「調整の方策に関する事項」、「向上の方策に関する事項」

あるいは「支持力の方策に関する事項」というように「の方策」を入れ

ろという美濃口委員の御意見があるのですが……。

藤田委員

大体いま那須先生その他の御意見が出ましたが、どうもここ

でおまとめ願つてけっこうですけれども、皆様から御意見があつたように、技術的な問題でなしに、根本的な問題が骨になつて行くのだ、そういう問題をここで論議しようということになりますれば、私は字句の契ではないと思つておるのです。だからそういう方向でやつていただけば、あとは確認していただければけっこうだと思ひます。

会長

それでは、大体、那須委員の修正意見と、それから藤田、森田諸

委員のお考えのような趣旨はお聞きしましたから、そういう趣旨に基いて、この次の会するときまでに成案

をつくり、そしてそれによつて特別の委員がそれぞれ出て、さらにその中から委員長を選ぶなり、あるいは小委員会をつくるようにする、なる

やく時を節約して進行したいと思えますから、そういう点で御了承願つておぎましようか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

会長　それではそういうことにいたします。次回はいつ開くか、なるべく早くはしたいと思いますが、いま申した趣旨でこれをさらに練ります。そして、この次のときにはすぐ特別委員を選ばして、その各委員で前申しましたように、委員長または送定あるいは小委員をつくる件その他にわたって、なるべく進行をはかりたいと思えますから、さよう御了承願います。

本日は御多用中を長時間にわたつてまことにありがとうございます。それではこれで散会いたします。

(76)

午後三時四十分散會